



おちほ

第84号 平成28年3月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>



スプリングコンサート

寒さも和らぎ、暖かい日も増え始めた3月最初の日曜日。音楽が大好きな利用者さん達が待ちに待ったスプリングコンサートがおこなわれました。

今年も、武庫川女子大学音楽療法研究室の吉里瞳子さんと青木智美さんのお二人に来て頂きました。

心地良い美声に利用者さんうっとり♡知っている曲が歌われ始めると手拍子に力が入ったり、テンションが高まり跳び跳ねたり、タンバリンや鈴を振ったりと思いきいに楽しまれていました。

直前に女子棟でインフルエンザが流行ってしまったことで、男子棟利用者さんのみでの開催と、少し例年よりか淋しい気持ちでの始まりでしたが、そこはお二人の歌とピアノで最後は盛況に終えることができました。
音楽ってやっぱり良いですね！

「母と暮らせば」を観た

理事長 山下陽一

「人間のすることじやなか」

昨年(二〇一五年)末に山田洋次監督による映画「母と暮らせば」を観ました。長崎に原爆が投下され、一瞬のうちに一人息子を亡くした母親の生きて死んでゆく物語です。

私は戦後に生まれたのですが、広島から三〇キロ南東の出身で、小さいころ聞くとはなしが耳に残っていて、今でもはっきり記憶していることがあります。住んでいた近くのおばさんたちが立ち話をしていた、おばさん自身の事かひとから聞いた話なのか分かりませんが、広島市の被災直後の凄惨な町の様子を話していたのです。焼けただれた多くの人のことや眼球がヒモを引いて飛び出たまま坐りこんでいた死体があったことなどを話していました。私の身の回りにまだ想像を絶する光景を見たり話したりする人がいたということ。小学校でも八月八日は登校日でした。平和を願う教育が行われていたのでしょうかが行われていたのか全く覚えていないのです。しかし先ほどの眼球が飛び出た死体話は、広島市にある原爆資料館には怖くて見学できませんでした。広島は平地ですから数千度の熱線で

焼け崩れなどなく瞬時に何万人も蒸発してしまつた、と聞かされたものです。

あの日、長崎の医大で講義を受けていた浩二もまさにそれで蒸発してしまいました。それから三年後に突然母の前に、母にだけに見えたり聞こえたりするように現れます。私の町も空襲を受けた町ですから小さいころは幽霊がでた話がよく聞きました。幽霊はきつと体験した本人には本当に見えたのだらうと思います。

「人間のすることじやなか」と指差しながら老人はつぶやくのです。が、今もそれに類したことが世界中で起きていることを思うとき、悪夢からの目覚めに一体何が必要なのかを思い知らされるのです。

母の孤独死

この映画の今日性を一つ。被爆者である母は、敗戦直後の助産婦という重労働もあり、病のため自宅で周囲が知らないうちに亡くなります。いつもとなりのおばさんや知り合いのおじさんが尋ねたりしている母なのですが、誰も知らないうちに亡くなります。この問題は「おひとりさまの最後」(上野千鶴子著)として今

日でも起きる問題でしょう。家族に見守られながら亡くなって行くということが次第に難しくなってきた、医療に延命治療のみはお断りしたいという患者が徐々にではあります。が、浸透しつつあるようです。ただ、死後数週間もして死体が発見されるというのは困る。腐敗の進んだ死体などではあまりにも多くの手間がかかりすぎるでしょうから。また、家族も社会もその人との関係やあり方が問われることになります。死後間をおかず知る人に見つけられる、これはとても良い最後なのかもしれない

今後は「おひとりさま」家庭が増えるという予想がされています。この問題に対して社会として、家族としてどのように対応していくのか、いままでのような臨終観とは違った崩されて実情に即した対応の在り方が考えられなければならないのかも知れません。

迎えにきてほしい人が
迎えに来る

この映画のラストは母を浩二が迎えにきて冥界への旅立ちで終ります。映画館内は静かに湧きあがる涙に満たされます。死亡するということが必ずしも忌避されることではないようです。

浩二は母に次のように告げます。

「…母さんと僕とは一緒だよ。これから

先ずっといつまでも」
「何で、どうして私があんたと一緒ね」
「だって、いいかい母さん、あなたはもう僕たちの世界に来ているんだよ」
……

母さんは笑顔で頷き、僕に支えられて向こうの世界に歩き始める。これから時間も形も何も無い、光だけの世界に行くんだ。…

〔小説 母と暮らせば〕

山田洋次・井上麻矢著 集英社

安息の地に導かれるというのはキリスト教での大いなる神の愛とされています。天使に導かれながらの昇天ではなく、迎えに来るほしいひとが迎えに来るといのは、キリスト教の信仰にはありません。仏教においても死出の旅路はひとりです。

臨死体験にあった人が強い腕で引き戻され蘇生した、その腕は誰々だったのではないか、という人の話を聞きました。逆に死に臨んで「お迎えがある」といいますが、これは死について宗教的捉え方を超えた、互いに苦勞し生活してきた者同士が編み上げた織物のようなものから発せられる奇跡ではないでしょうか。一緒に苦樂を共にする中で、死の間際に日常では意識されない脳の奥深くにある体験を蓄積する細胞が、医学や他の科学では説明できないことを起こしたともいえるようなそんな人体の不思議を思います。

(二〇一六、二二九)

「新たな取り組み」

寮長 太田 正 則

この冬の落穂寮は、二月中旬現在、今のところ一度の大雪に見舞われたぐらいいで、予報通りの暖冬となっております。そのおかげもあり、作業棟の改築工事も順調に進み、三月下旬に完成を迎えられそうです。前号でもお伝えしましたこの作業棟は、「平成二十七年度森林整備加速化・林業再生交付金事業費補助金」と「平成二十七年

の時はぜひ見学にいらしてください。そして、使っていただければ幸いです。

暖冬の恩恵

の二つの事業補助金を得て建てている木造平屋建ての建物で、滋賀県産材の中でも特にびわ湖産材として認められた木材(ヒノキ・スギ)四十四、三㎡を使用した建物となります。この建物では、牛乳パックを百%再生した葉書作り、粘土造形、絵画制作の三部屋とこれまでやこれからの作品を展示するギャラリーの四つのスペースに別れています。完成は年度末ですが、引越しなどが必要です。お披露目の準備が出来次第、皆様にもご案内させていただきますので、そ

さて、日本の四季はそれぞれに特徴があつて、味わい深いものがあります。それは、夏は暑く、冬は寒いという自然の恵みがあつて初めて味わえるものであり、動物にとつても大切なところ。冬が温かいことにより、本来越冬できないものができてしまう事により、異常繁殖する物も出てくるでしょう。しかし、身体機能や生命維持機能に弱さを持つ当寮の利用者さんにとっては、体温保持が難しかったり、血行障害を起こす方も多く、しもやけから凍傷に至ってしまう方もおられ、利用者さんの辛さと、健康を管理する職員の労力を考えると、やはり暖かい冬は助かります。また、感染症対策の効果もありますが、暖冬の影

響で感染症蔓延の確率も下がっているのではないかと思ひ、なんとか、このままこの冬を乗り越えられればと願っています。

新年度に向けて

落穂寮が生活介護事業定員を増やして通所の受け入れを始めて五年が経過しました。これまでは入所利用者のみを対象としていた生活介護事業だったため、職員不足の影響をもちに受け、日中活動に職員を配置することが難しい日には生活棟の中で活動することもありました。そのため、通所利用者の受け入れをするにはいくつかの課題がありました。その中でも一番の課題は、いかに活動をルーティン化するかでした。特に自閉傾向を持つ方は、行動をパターン化することで、何をするのが明確になり(見通しを持ちやすくなる)、安定して活動に取り組むことができるようになるからです。これまでのように日によって活動場所や内容が異なるようなことで利用者が混乱し、パニックになる事だけは避けなければならなかったのです。そこで通所事業開始に際して、

受け入れ場所の確保や天候に左右されない活動内容・場所の提供が必要不可欠でした。この五年間で試行錯誤を繰り返して、ようやく一定の活動場所と活動内容を整備することができました。しかし、利用者さんの状態は一定ではないため、身体機能や精神状態に応じて活動内容や場所を変更しなければなりません。一年間の取り組みから得られた情報をもとに、毎年のように編成会議において検討して新たな年度を迎えることになりました。この平成二十八年度には、新たに利用者さん一人を迎えることになりました。これで通所利用者は4名となります。どの利用者さんもそれぞれ行動特性があり、また、一人ひとりこだわりがありますが、それらをストレングス(その人が本来持っている強さ・力)に変換して支援し、充実した活動に繋げられればと思います。

新しい作業棟とともに、新たな活動に取り組み利用者さんにも会いに来て、そして一緒に造形活動等に取り組んでいただける方をお待ちしております。

男子棟親子旅行 in 宮乃温泉



11月8日、

男子棟は親子旅行に行きました。毎年様々な場所で行っていますが、

今年も甲賀市にある宮乃温泉で行いました。総勢約60名で大型バス2台に乗って出発！

到着しそれぞれの席に着くと、目の前に用意されていた会席料理釘付けです。「いただきます」の挨拶を終えると、用意されていた会席料理が瞬く間に無くなり、次々運ばれてくる料理もあつという間に無くなっていきます。食事の後は、ご家族と一緒に時間を過ごす方や、外に散歩に出られる方などそれぞれゆったりとした時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか。

来年もぜひ楽しい親子旅行にしたいです。保護者の方々、ご参加ありがとうございました。☺



親子旅行 in 千松



待ちに待った親子旅行の日がやってきました！お

天気はあいにくの曇りですが、朝から全利用者さん達はお洒落着に身を包み、大好きなご家族さんの元へ元気に向かわれました。行きのバスでは、歓談されたり、外の景色を眺めたり、それぞれ和やかな時間を過ごされました。

そうこうしているうちにバスは会場へ到着。今回のお食事処は草津市の千松さんへ。立派な船の形をした建物に皆さん心弾ませ、店内へ進まれます。それぞれ席に着かれたところで「いただきます！」次々と目の前に運ばれてくる料理に利用者さんは目を輝かせておられました。皆さんのお料理もべろりと完食され、中には思わず向かいの方のお料理にまで手が出てしまう利用者さんも(笑)

すっかり締めデザートも美味しくいただき、「ごちそうさまでした！」あつという間に楽しい時間は過ぎてしまいましたが、久しぶりに会うご家族さんとゆっくり過ごすことができ、お腹も心もいっぱい満たされたところで今年の親子旅行も無事幕を下ろしました。来年はどんな親子旅行になるか今から楽しみですね！



NEW FACE

職員 Ver.

昨年6月より男子棟でお世話になつてゐる濱 絵美と申します。若い時からお年寄りや障がいを持った方々のお世話をさせて頂く仕事に就きたいと思つていました。

た。しかし、その一方で障がい者支援をしてみたいという思いも持ち続けており、年齢的にも新しい仕事に挑戦するには最期の時期かと思ひ、思ひきつて落穂寮のお世話になることを決めました。



そして紆余曲折を経て家族、友人の協力もあり、ヘルパーとして介護の仕事にさせて頂いておりまし



はじめまして、この度御縁があり、職員のひとつりになった山本 寿子と申します。以前は全く違う職場で11年間働いていましたが、辞めてからは主婦業に専念していました。しかし、少しでも働きたいという気持ちを知り合いに話した所、

不安や戸惑う事が多かったが落穂寮です。こちらに入るまでは、同じ地域にこのような施設が有ることさえ知らず、入った頃は



せつ分



鬼は外～！！

滅する「魔滅」という語呂合わせからきている等、諸説あるようです。

さてさて、落穂にも2月3日には鬼がやってきました。前述した豆まきの由来を利用者の皆さん知ってか知らずか『節分には豆撒くんや』と全員食堂に大集合。今年は男子棟から3名、女子棟から1名の年男女の縁起の良い4名が袴を羽織り、神様の力を借りて邪気を払います。それに続いて全員豆を握りしめ鬼に向かつて一斉に豆まき総攻撃！これにはさすがの鬼たちも「痛い！痛い！こりやかなわん」と逃げてゆくのでした。全員で力を合わせ、見事鬼を追い払うことのできた皆さんは、今年も無病息災元気に過ごしていただけることでしょう。



昔は季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、季節が変わる前に邪気を払うための「追儺」という宮中行事が行われていたそうです。その行事のうちの「豆打ち」が『豆撒き』のルーツであると言われていいます。豆には「魔(鬼)の目↓魔目↓まめ」を鬼の目に投げつけて鬼を





落 穂 寮

K'mas 会



今年も12月23日に、落穂寮にサンタクロースがやってきました。

落穂寮のクリスマス会の開始です。ちなみに、落穂寮で行われる各行事の中で、筆者の岸本が一番大好きな行事が、このクリスマス会です。

キャンドルライトで会場が満たされる中、サンタクロースが利用者さん一人一人にプレゼントを渡す際に見られる、利用者さんのとびっきりの笑顔が幸せを与えてくれるからです。

今年のクリスマス会は、日中に多目的学習棟で行われました。

クリスマスランチでまずはお腹を満たして幸せ気分を満喫。

今年のクリスマス料理は、「大きな骨付きもも肉」がメイン料理として登場！利用者皆さんの目が釘付けに・・・。

利用者

さんと職

員が一緒

にランチ

を楽しん

だ後は、

この日お

招きしま

した方と

職員によ

る出し物

で、利用



者さんと一緒になって楽しむ時間です。

最初に会場を盛り上げてくれたのは、外部からお招きしました『めろーくわると』さんによるサクセス演奏。

『めろーくわると』さんは、アンサンブルコンテストで、金賞をとられる実力派です。

テナーサクセス・アルトサクセス・ソプラノサクセスの奏でる美しく楽しい音楽に、利用者さんも職員も感動しました。

もちろん職員も負けてはいません。施設長も参加してのダンスでは、利用者さんと一緒になって楽しく踊り、荒木STのマジックショーでは、不思議な出来事に驚きの声で、三〇〇個



のキャンドルを用意しての幻想的な演出の中でクリスマスソングを歌ったりと楽しい時間が過ぎました。もちろん



最後に登場するのがサンタクロース!!

サンタクロースに名前を呼ばれた利用者さんは、プレゼントを受け取り、サンタクロースと記念撮影。

おやつに『いちごのショートケーキ』を食べて、クリスマス会終了です。来年もサンタクロースさん待っていますよ!!



リフレッシュ 旅行 2015



お ち ほ

2015

トライフル島



ナガシマ
スパイラント



アドベンチャーワールド



松阪牛



海へ
泳ぐ



ライオンバス



おかあさんと
いっしょにコンサート



動物園



遊園地



お伊勢さん

リフレッシュ旅行

餅つき



昼には、あんこ、きなこ、おろしと様々な味のお餅をいただきました。とつても美味しかったです。5年後と言わずに毎年食べたいです。お腹いっぱい、心もあつたかになった一日でした。



天候を心配する中、5年に一度の日赤奉仕団のおもちつきが始まりました。朝から沢山の方がエプロン姿で準備して下さり、ソワソワ、ワクワクの利用者の人たち。寒い中でしたが、外で蒸したもち米を白と杵でヨイショという掛け声とともについていきます。私もつきたい!!と前に出て来られる利用者の方、支える職員とともに、手をつかれないように様子を伺いつつ合の手を入れて下さる奉仕団の方、上手につきあがったふつくらなお餅を素早く丸めていく早業に驚きつつ、早く食べたいという思いを抑えていました。



あつという間に時間も過ぎてお

「ちょっとひた出来事」

先日、甲賀圏域で行われた福祉職求人への職場説明会があり、経験者は語るコーナーで求職者の方の参考になるお話を落穂寮職員がさせていただきました。

経験談を伝えることで、来場者の方は身近に感じていただき、働き始めてからの自分をリアルに想像できたのではないのでしょうか。広報を見て、落穂に来てみたい!と思われた方、ぜひ気軽に見学から来てみてください。お待ちしております♡

協力ありがとうございます

社会福祉法人椎の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。
今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。
平成28年2月末現在

- シガ技研
- 信基金属
- カネヨシ商事
- オージス総研
- 小林正明
- 原田隆和
- 信基金属
- 生命保険協会滋賀県協会
- 滋賀教区浄土宗青年会
- 宇川新蔵

（敬称略）
ありがとうございました。



泉

昨年度も色々ありました。が、なんとか無事に新年度を迎えることが出来そうです。来

年度も落穂寮をよろしくお願いします。また、この号が出るころには、事務所前の工事も終わり、新しい作業棟が稼働しているはずで、次号で詳しい紹介も出来ると思います。工事中にはご迷惑をおかけしました。さて、年度末にですが、落穂寮でもインフルエンザとウィルス性胃腸炎が流行してしまいました。男子棟が胃腸炎、女子棟にインフルエンザが同時期に流行。食堂も閉鎖して活動も全てと断ること、同時に両方が流行することはなんと回避出来ました。インフルエンザに関しては、利用者さん、職員共にほとんどの方が予防接種を受けています。調べてみると、予防接種を受けることで、インフルエンザを防げる確率は60%ぐらいで、50人罹るところが20人になる、というレベルだそうです。また、予防接種の一ヶ月後が一番、体内の抗体の効果がピークになっているので、注射を打つ時期とインフルエンザが流行する時期の関係が大きいとのこと。ご存じの通り、今年は暖冬で、インフルエンザの流行も遅くなっていました。予防接種をしたからと油断はできないということでしょう。これからも利用者さんの健康な毎日を守るよう、支援をしていきたいと思っています。

木言

葉っぱを脱ぎ捨てて
強くなる風も雪も
枝の間から受け流す
何もかも受け止めるのは
しんどいからな
冬の木は身軽